



ふつう、地震は、どういうゆれ方をするの

小さなゆれと大きなゆれがある

池に石を投げこんだとき、水面が波立ち、その波が円のようになって、外側へ伝わっていきます。地震も震源（地震の起こった場所）を中心にして、水面の波のように、伝わっていきます。

地震のとき、初めに小さなゆれ（上下の動き）を感じ、次に大きなゆれ（水平の動き）を感じます。

これは、地震の震源から、伝わってくる波に、速く伝わる波（P波）と、ゆっくり伝わる波（S波）があるからです。初めは、P波がやってきて、上下に小さなゆれが起こり、しばらくして、S波がやってきて、横に大きなゆれが起こります。さらに地表を伝わってくる、表面波によるゆれが起こります。

震源の近くの地震

地震の波は、震源がはなれていても、真下から伝わってきます。震源が近いときには、上下にゆれる時間が短く、P波とS波が、ほとんど同時にやってきます。こういうときには、地震だと気づいたときには、もう、大きなゆれになっています。（監修・国司 真）

